

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)辻堂2丁目原田ビル	階数	地上6F
建設地	藤沢市辻堂2丁目1165-1、他3筆	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	30人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、物販店、集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2013年10月 竣工	評価の実施日	2014年1月14日
敷地面積	555 m ²	作成者	ファーストデザインラボ
建築面積	449 m ²	確認日	2014年1月14日
延床面積	2,060 m ²	確認者	ファーストデザインラボ



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項	
総合 辻堂駅西口に直結する立地するため二階部分に屋外廊下を設け、人々が行き交う姿を演出し町並みに賑わいが出る様に計画した。二階天井部分を天然木で仕上げる事で他の建築と明確な差別化を図りつつも湘南地域の町並みに合うよう計画した。地上部分に置いてはできる限り緑化をし様々な種類の樹種を植える事で、季節毎に様々な表情が現れる様にし、見ても楽しめる外構計画とした。	その他 無し
Q1 室内環境 サッシはすべてT2以上を採用し、駅前商店街という立地の中でも室内環境をさせるよう計画した。南側にメインの開口部を設け、明るさを確保しながらも上階のバルコニー部分が夏の太陽光による室内温度の上昇を	Q2 サービス性能 内装計画においてはCGを用いてイメージを共有しながら進めた。維持管理を考慮して配管設備の素材を選定した。賃貸部分が多いので、耐力壁を出来る限りなくし、空間の自由度を高める計画とした。
LR1 エネルギー 照明器具は省力化を計るためLED照明として、共用部は出来る限り回路を分け、個別の調整が可能な計画とした。	LR2 資源・マテリアル 衛生設備においては積極的に節水型の器具を選定した。2階屋外廊下、住居部分バルコニー、屋上部分に採用したデッキ材はエコマーク、CO2削減効果(日本スマートエナジー)を取得。
	Q3 室外環境 (敷地内) 駅前という立地上防犯カメラを設置し防犯性を高めた。地上部分に置いてはできる限り緑化をし、舗装部分においてはインターロッキング(浸透系舗装)として温熱環境に配慮した。
	LR3 敷地外環境 照明レベルを適切にし、光漏れの無い照明器具を採用。地上部分に置いてはできる限り緑化をし、舗装部分においてはインターロッキング(浸透系舗装)として温熱環境に配慮した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される